

元中学校長 金城佳隆先生を講師に クラブ「三線」 スタート！

教育研究員の研修の一つである「クラブ」。11月19日(木)に、元中学校長の金城佳隆先生を講師に、クラブ「三線」の第1回目を行いました。5名の教育研究員は、和やかな雰囲気の中、沖縄文化にふれる楽しさを味わっていました。

クラブ「三線」の内容

- 講師紹介
- 教育研究員の紹介
- 沖縄の文化について
 - ・沖縄の方言：「ことばは文化」であり、方言を沖縄の文化として伝えて欲しい
 - ・琉歌：8・8・8・6の30音から出来ている。
 - ・方言の「三母音の原則」：共通語のアイウエオは、沖縄ではアイウイウになる。
 - ・組踊：玉城朝薫が創始。冊封使をもてなす為に上演
- 三味線の各部名称：○上①→○下②糸巻き・糸ぐら・歌口・棹・絃(男絃・中絃・女絃)胴・ウマ・猿尾)
- 調弦
- 工工四(三線の楽譜)→合四工乙上五老中六尺七



写真1 講師の金城佳隆先生

教育研究員の感想 (研修日誌から)

佳隆先生は、クラブの冒頭で「ことばは文化」その地方の文化や伝統の本質に触れるためには、その地方で話されていることばを知らなければいけない、沖縄の先人たちが培ってきた沖縄文化、アイデンティティーの衰退に繋がらないかが大きな課題だとお話してくださいました。初めて習う三線の奥深さを感じました。

(上原亜矢)



三線の基本的なことを教えていただきました。それ以外にも、金城佳隆先生の教員時代のお話を聞くことができ、貴重な時間を過ごすことができました。

三線は、なかなか難しいと感じましたが、あきらめずにがんばっていきたいです。

(比嘉頼子)



方言がわからない人が増えているという佳隆先生の言葉に「ウチアタイ」しながら聞いていました。教師もわからない中でうちなーぐちを継承していく方法として、伊江島の方言かるたや五十音表などは有効だと思います。

今日は工工四の楽譜の読み方がわかり、たった11音しかなくて簡単そうでした。覚えるのは大変ですが、なんとかクラブが終わるまでには一曲は弾けるようになりたいです。「唐船ドーィ」が習いたいです。(久高友弥)



今日からクラブ三線がスタートしました。金城佳隆先生を講師にお迎えし、三線の歴史や各部の名称、弾く姿勢などを確認した後、音出しをしました。始めに、開放弦、次に人差し指、中指、小指と11の音出しができました。実は、三線初心者なので3月までに曲が弾けるか心配ですが、11の音出しをしっかりと覚えて、頑張ります。

次回はデンスー節や安波節にも挑戦するとのことで、今からとても楽しみです。

(富名腰由紀)



三線を引くのは生まれて初めてで、とてもいい体験になりました。

沖縄の素晴らしい文化にふれる貴重な時間でした。

島尻教育研究所の研修を修了する3月までには、何か一曲弾けるように頑張りたいと思います。

(波照間生子)

